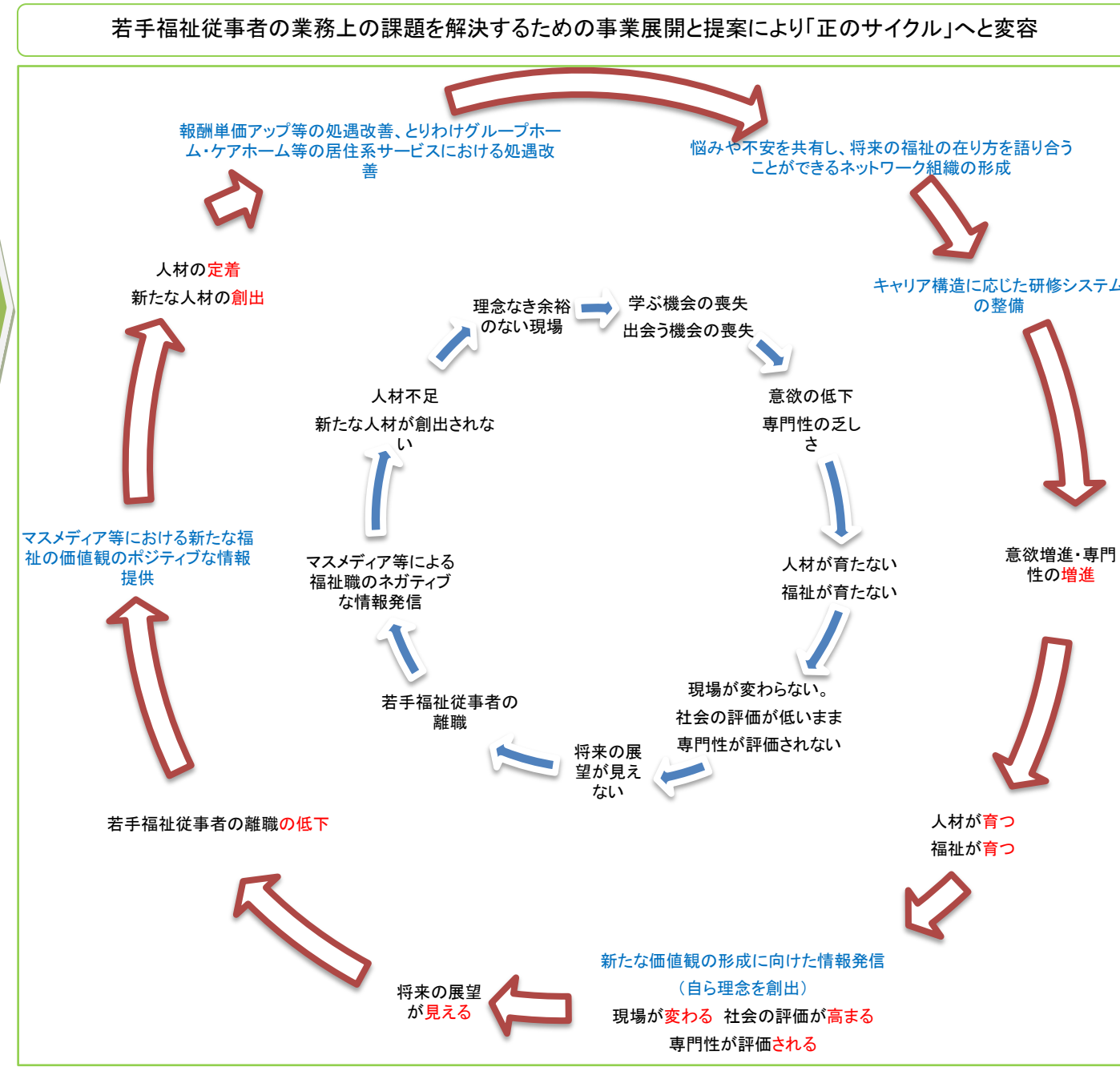
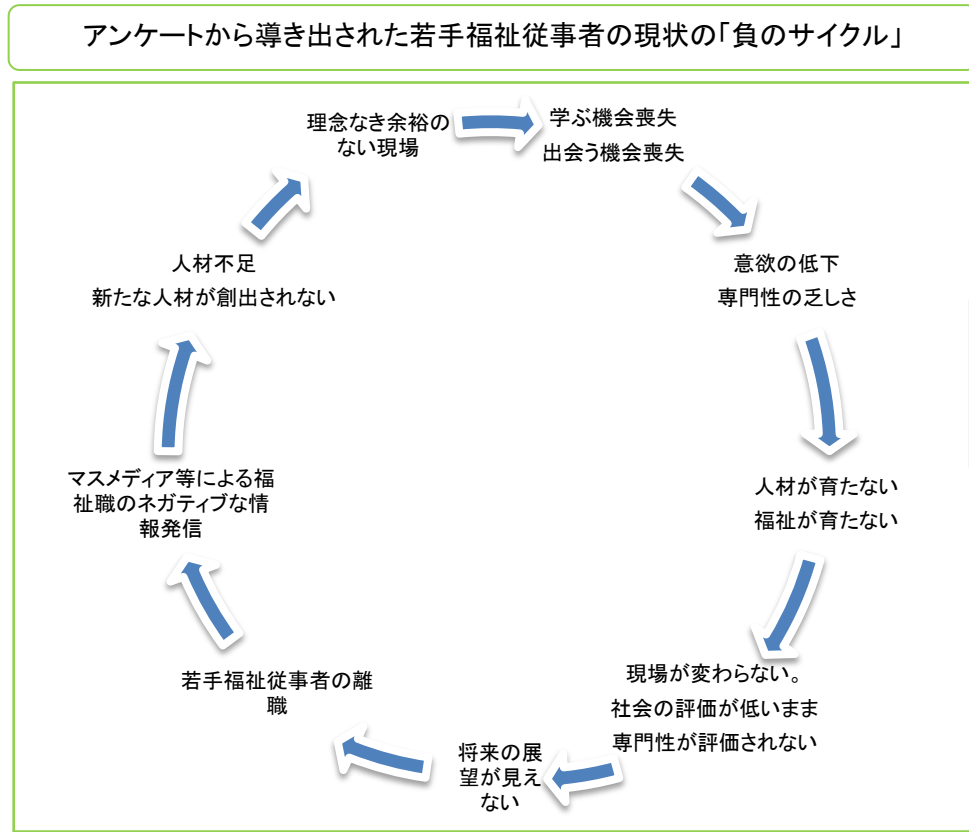


# 若手福祉従事者の現状と今後の展望～若手福祉従事者の現状と今後の展望のアンケート調査結果をもとに～

以下の表などは若手福祉従事者に対するアンケート調査結果から業務上での悩みや不安などの現状把握及び業務上の課題解決を含めた今後の展望を整理したものです。

業務上の悩みや不安を整理すると、若手福祉従事者の離職へと辿る「負のサイクル」が導き出されました。若手福祉従事者が活力を持ち成熟した福祉社会の創設に資することを「負のサイクル」を連鎖させないことと仮定し、今後の展望については、「負のサイクル」が「正のサイクル」と変容するための「事業展開と提案」に整理しました。



## 事業展開と提案

**居住系サービス報酬単価アップ等の処遇改善**  
 地域生活支援の要となる居住系サービスに対する単価を引き上げ、キャリアを積んだ従事者が提供できる仕組みを形成する必要がある。

**ネットワーク組織の形成**  
 不安や悩みから生まれる「孤独」を生まないために、自治体レベルでのネットワークを形成する必要があり、教育機関等との連携による都道府県レベルでの若手福祉従事者サポート体制の整備が求められる。

**キャリア構造に応じた研修システム**  
 福祉現場は他業種から比べると人材不足も相まってキャリア構造が未熟であるため、キャリアパスがないままに管理者等を担うことが多い。そこで、悩み度の高い2年目から5年目までの研修システムを以下のように提案する。

- 2年目: 福祉思想を学ぶ研修会の開催
- 3年目: 新たなメンターと出会う出稽古
- 4年目: コミュニケーション・マネジメント力育成
- 5年目: コーチング力育成・将来設計研修

「ケアの向上」は年次共通研修項目とする。  
 上記事業は関係機関と連携し、多様な方法を駆使して実証的モデル事業として取り組む

- アンケートの概要**
1. 調査の目的
    - 若手福祉従事者の業務上の課題や悩み、将来展望を把握する。
    - 活力ある福祉現場を築き、成熟した福祉社会を形成するための提言
  2. 調査項目
    - 若手福祉従事者の基本属性、業務上の悩みや不安について、福祉に対する考え方(イメージや生涯続けたいか等)、現在の仕事に求めるもの等
  3. 調査概要
    - WEBにアンケートフォームを設置及びアンケート調査員による配布回収
  4. 調査期間
    - Web: 1/26～6/24 □調査用紙: 4/21～6/24
  5. 総回答数
    - 892件

## 若手福祉従事者の業務上の課題を解決するための事業展開と提案(提言)

1. 報酬単価アップ等の処遇改善、グループホーム・ケアホーム等の居住系サービスにおける処遇改善
2. キャリア構造に応じた研修システムの整備
3. 悩みや不安を共有し、将来の福祉の在り方を語り合うことができるネットワーク組織の形成
4. 新たな福祉の価値観の形成に向けた情報発信(自ら理念を創出)
5. マスメディア等における新たな福祉の価値観のポジティブな情報提供

## アンケート調査からの考察～特筆すべき結果を抜粋～

1. 8割以上が「福祉=過重労働・低賃金」とイメージを抱いているが、**生涯この仕事を続けたいと前向きな回答も8割以上である。**
2. 業務上「やや悩んでいる」「かなり悩んでいる」との回答が7割弱である。
3. 悩みを項目別にみると、低賃金・過重労働が高い割合であるが、**「職場の理念に向かって業務を進めることができない」項目についても高い傾向にある。**
4. 分野別では介護・障がい分野共通して**居住系サービスの悩みや不安はかなり高い傾向にある。**
5. **業務上に求めることは、賃金の値上げが群を抜いて高い。次点は、「福祉の専門職が社会の中で評価される仕組み」である。**
6. **従事年数別では1年目の悩みは低い、2年目の伸び率は群を抜いて高い。2年目以降微増し、7年目が最も高い。(7年目は大卒で言うところの30歳という節目の前)**